

委員会等の会議録

1 会議名	愛南町城辺地域審議会	
2 議題	(1) 新町建設計画の進捗状況について (2) その他	
3 開催日時	令和7年2月26日(木) 10時00分から11時10分まで	
4 開催場所	愛南町役場 3階 大会議室	
5 傍聴者数	0人	
出席者		
6 委員氏名	久能 忠和、立花 弘樹、岡 雄次、門田 真美 濱 香代美、渡邊 千寿、倉田 千保	
7 担当所属	所属名	企画財政課 政策推進室
	担当職員 (職・氏名)	企画財政課長 清水 雅人 政策推進室長 桑原 真也 主幹 好岡 英樹
8 その他の 出席職員	所属名	
	出席職員 (職・氏名)	町長 中村 維伯 副町長 木原 荘二
議事内容(次ページから)		

発言者	発言内容
	(開会)
立花会長	議題(1)「新町建設計画の進捗状況」について説明をお願いします。
好岡主幹	(新町建設計画の進捗状況について説明)
立花会長	質疑等ありませんか。
全委員	(なし)
立花会長	議題(2)「その他」について事務局から説明をお願いします。
好岡主幹	<p>町の政策を定める最上位の計画で、町民、事業者及び行政がそれぞれ果たすべき役割と責任を分担して、総合的かつ計画的にまちづくりに取り組んでいくための指針となる、第三次愛南町総合計画というものがあります。</p> <p>この第三次愛南町総合計画は、基本構想と基本計画で構成されています。</p> <p>基本構想は、町の将来像とまちづくりの状況を明らかにするもので、期間は令和4年度から令和11年度までの8年間です。</p> <p>基本計画は、この基本構想を実現するための政策、施策の目指す姿、目的を明らかにするとともに、施策に貢献する基本事業などを定めるものです。期間は、令和4年度から令和7年度までの前期基本計画と、令和8年度から令和11年度までの後期基本計画に分かれます。</p> <p>来年度は、令和8年度から令和11年度の後期基本計画の策定の年となっています。</p> <p>この基本構想自体を変えることはないのですが、令和8年度からの後期基本計画は、全体的に前期の計画をベースとして、その中で特にこの4年間を通して力を入れていく内容などを加味して策定していきます。町長の公約もその一つです。</p> <p>そこで皆様にお願ひがあります。</p> <p>この場をお借りし、皆様から、これからの愛南町について、特にこういうことに力を入れてほしいといった御意見をお聞かせください。</p> <p>頂いた御意見が必ず計画に入るものではありませんが、参考</p>

	<p>にさせてもらえたらと思っていますので、率直な御意見をお願いします。</p>
立花会長	<p>事務局の説明が終わりました。 この件について、何か御意見等ありましたらお願いします。</p>
岡委員	<p>資料中の行政のコミュニティーづくりという中で、地域活動のリーダーとなる人材育成やボランティアが非常に大事だと思います。私の地域もそうですが、非常に高齢化して若者がいない中で、地域を今後活性化していくためのリーダーとなる人材の育成は、非常に重要だと思います。 地域の人材ができてくれば、防災に関しても、共助というところですごく大事な部分だと思います。</p>
桑原室長	<p>岡委員から御意見いただいた件について、私ども企画財政課政策推進室の分野で言えば、男女共同参画というものがあります。 人口の半分以上いる女性が意見を言えるような環境を作っていくべきだと考えています。 愛南町も今年度4月に、男女共同参画の推進条例を作りました。 その中で、これから女性の意見も出せるような環境や、リーダーの基盤を作っていくことも、仕事の一つになっています。 既に、今年度いろいろな事業をしていますが、令和7年度については、そういう女性の方々の意見を聞く座談会のようなものを計画しています。それも一つのリーダーづくりにつながっていくと考えています。 今後、そういった環境を作っていきたいと考えていますので、今後とも是非御活躍いただきますようお願いします。</p>
清水課長	<p>岡委員の言われるように、人材育成は非常に重要な課題で、そこに力を入れるのは当然です。防災の話が出ましたので、町では防災士の組織化ということを支援するために、防災対策課が動いています。 これが後期の計画にどのように入っていくかは未定ですが、防災対策課に伝えたいと思います。 人材育成の活動は、公民館活動、それは公民館主事が動くのではなくて、地域の人材をつくるというのが大きな目的になっ</p>

	<p>ており、そこに力を入れていきますので、生涯学習課には連絡していきます。</p>
立花会長	<p>この防災士の話ですが、漁協に入ってから、自主的に防災士の資格を取った職員もおり、皆、意識が高くなるので、しっかり進めていかなければという思いです。</p> <p>漁協は、どうしても女性の活躍の場が事務的なこととなりますが、職員幹部会で女性が役職に就くのも良いのではないかとという意見が出ています。役員会、理事会に女性がいないので、女性の意見もほしいという意見もありました。</p>
岡委員	<p>町内に自主防災組織がそれぞれあると思いますが、防災士はかなりの数いるのでしょうか。</p>
清水課長	<p>はい。</p> <p>今後も防災士を増やすということです。</p>
中村町長	<p>町内で、前年末で300名を超えています。</p> <p>ちなみに柏崎は約100人の住民に対して7名防災士がいます。</p> <p>自主防災組織の中にも、防災士が入って、そういう組織作りをしています。</p>
岡委員	<p>自主防災組織に女性が入ってくると、女性の視点で対応できるのではと考えます。</p>
渡邊委員	<p>蓮乗寺ですが、蓮乗寺は女性防災士の方がいて、その人を中心に防災の集会を何度もして、地区の人たちが協力し、組織化されています。</p> <p>私の夫はサラリーマンで、あまり蓮乗寺になじみがなかったのですが、定年して防災会に入って、やっと地域の人顔が見えてきました。年に数回集会があるので、女性なら炊き出しなど活躍できますし、まだまだ動けるからと、防災を通じて地域の人と知り合って、皆でそのような活動ができるということで、楽しくやっています。</p> <p>去年も、岩水で地区を挙げての防災の訓練があり、各地域にも、人が集まるための活動としても、防災活動は広げていけたらためになると思います。</p>

<p>岡委員</p>	<p>なかなか独自で企画できない状況があつて、社協の事業で防災の事業を3回ほどして、炊き出しらしいこともできるようになりました。</p> <p>海岸沿いはもっとする必要がありますが、少し遅れている状況です。</p>
<p>久能委員</p>	<p>僧都地区でも、防災に関しては動いていくべきということで、前の区長のときは、防災で人を集めて炊き出しなどをする話がありました。</p> <p>防災と言えば、防災無線があります。防災無線は、その場に行つて放送ができると聞きました。</p> <p>そのようなことを事前に頼んで、皆に周知し、集合してもらう機会を実施しようと言っていました。が、コロナ禍でその話も立ち切れてなかなか実施できませんでした。</p> <p>今年度も防災対策課にお願いして、講師の先生に来ていただいてお話をする会の段取りをしていましたが、先生の都合で開催できませんでした。</p> <p>僧都は、海ではなく山に関する防災に関する資料を、防災対策課で作成してもらい、それを役員に精査してもらい、各家庭に配布しようと思っています。</p> <p>やはり地区によっていろいろ防災の形が変わると思います。</p> <p>僧都地区は高い場所にあるので、地震があればすぐに集会所等に避難する確率は少ないです。逆に、僧都地区は広いためそこまで行く道が遠く、高齢化も進んでいるので、移動手段がなかなか難しいというところもあるので、役員と地域住民とで話をして進めていかなければいけないのではないかと思います。</p>
<p>倉田委員</p>	<p>久良の新浦ですが、本当に逃げる道がなくて、高い建物もないですし、山は崩れます。これをどうにでももらえないでしょうか。</p> <p>自主防災として、公民館事業で先日、空調整備のない、小学校の体育館で夏の暑い盛りに訓練をしました。体育館で汗をかきながら、避難してきた人をどう振り分けていくかということ。を、防災士の方に来てもらって、いろいろ教えてもらいながら、各班に分かれて実施しました。</p> <p>その時に女性が活躍しなければならぬとよく分かりました。男性だけでは考えが及ばないところもあつて、やはり、女</p>

<p>立花会長</p>	<p>性が防災士の免許を取らないといけないと思いました。 そういうこともまた、若い人たちに、お願いできることがありましたらお願いします。 久良から向こうの逃げる場所の整備をお願いします。</p>
<p>岡委員</p>	<p>久良は、高台は小学校くらいしかないですね。</p> <p>久良であれば体育館が避難所になりますが、私たちの地域は一次避難場所しかないので、そこで生活できるかという点で難しいです。</p> <p>地区としては、地区独自の例えば、町長の地区のように防災倉庫のようなものを、独自で設置することなど自分たちがやれることをしていかなければと考えています。</p> <p>まずは、何日間かそこで生活することを想定しておかなければならないと思います。</p> <p>城辺小学校、中学校が避難所なので、どうやってそこに行くのかということもあって、まずは、自分たちで生活できる場所を自分たちで作っていかないとけないという話になっています。</p>
<p>桑原室長</p>	<p>津波がどれくらいの時間で到達するのか、最大の津波は何分後かなど、そのような情報も共有することが一番だと考えています。</p> <p>5分で逃げる場所はないが、30分で逃げる場所があります。ただ、久良については、最大浸水域が愛南町の中でも最も高いぐらいだったと思うのですが、より深刻な場所ではあります。</p> <p>地域で、逃げる場所の問題、食料については、食料を保管するのではなく防災グッズ等で個々が持つということも考えながら、逃げる場所を優先するのかどうか、自主防災組織の中で総括的に考えてもらえたらと考えます。</p> <p>その結果を基に、町がサポートできる体制がついてくると思っています。</p> <p>最初に逃げる場所ではなく、その組織が一番大事だと思います。先ほど男女参画の話もありましたが、今年度、町の総合防災訓練を実施した際に、女性の立場で防災という部分を考えるべきではないかということが全国的に広がっていることから、女性リーダーであり防災士の資格を持っている宇和島の方に講演をお願いしたというような状況でした。</p>

<p>門田委員</p>	<p>そういった機会を活発化させる体制作りは必要だと考えています。</p> <p>その防災リーダーの方は、以前、緑でも1回講演してもらいました。</p> <p>それがきっかけで、今年度、緑小学校の女の子が一人と、城辺中学校に通う緑の子が一人、防災士になりました。</p> <p>親子がまとまって、5、6人、一気に合格しました。</p> <p>また、2週間ほど前に、地域合同の避難訓練を、防災士中心で初めて実施しました。</p> <p>その方たちが初めて中心になってやって、帽子をかぶった姿がまた恰好良くて、子供たちも受けてみようかという子が増えてきたので、やはり若者から増やしていくことが良いと思いました。</p> <p>体育館でも皆で火を起こして、「水も何十年前などの水でも飲むことができる。」「その水でお米も炊ける。」と教えてくれました。子供たちも興味を持って、来年受けてみようという子が小学生にいます。</p> <p>きっかけをどんどん増やしてもらいたいと思います。</p>
<p>久能委員</p>	<p>以前、防災資器材の入っている倉庫の中の備品を再確認したら、賞味期限切れがありました。</p> <p>前の区長に聞くと、これは地区で用意しないといけないということで、購入しないといけないと思いました。</p> <p>そのような情報や防災関係の期限切れなどがあつたら、順次交換しておいてもらえると、何かあつたときに防災資器材の中にある備品等が使いやすくなります。</p>
<p>中村町長</p>	<p>避難訓練を年に1回は実施してもらい、その時に倉庫を開けて、例えばその中にテントが入っていればテントを立ててみるなど、そういうのを皆でするところから始めることが大切だと思います。</p> <p>大災害の時には、職員が各地区まで来ることはできません。</p> <p>実は、私の地域でテントを立てたときですが、最初は立てたことのない人ばかりで、すごく時間が掛かりました。</p> <p>一度やり方が分かると次からはできるようになります。</p> <p>大変とは思いますが、地域の中で年に1回は倉庫を開けて、中身を確認してもらいたいと思います。</p>

<p>久能委員</p>	<p>地域の中で年に1回は倉庫を開けて、中身を確認していきたいと思います。</p> <p>役員がその年度で変わるところもあると思うので、そうなる と全体的に何人かが中身を知っておけるようになるので実施 していきたいと思います。</p>
<p>立花会長</p>	<p>私から一つ聞きたいのですが、漁協の本所に職員が30数人 います。</p> <p>仕事の最中にそういう事象が発生をすると、ライフラインが 閉ざされて身動きが取れません。後ろの高台に逃げるとい うことになると思いますが、漁協に今、防災グッズなど備蓄 のようなものは整備してない状況です。</p> <p>役場にそういう対応ができる防災グッズも含めて、備蓄は あるのですか。</p>
<p>桑原室長</p>	<p>職員用はないですが、一般の方々が使われる備蓄である食料、 トイレ、人を区切るようなパーテーションは用意しています。</p> <p>ただ、全町民に対応できるかというところではありません。 ある一定基準のものに対し、用意できるだけのものを対応 します。</p> <p>例えばそれが食糧であった場合は、賞味期限が切れる前に、 入替えをして、賞味期限が切れそうな物については、各地区 の自主防災組織等で避難訓練を実施する際にお配りして、「 これが備蓄食料です。」ということを知って食べてもらうとい うような使い方をしていきます。</p>
<p>清水課長</p>	<p>保育所などには用意しています。</p> <p>園児の分など、そういうものは常に用意している形です。こ の庁舎内で、恐らく立花会長が言われるのは職員用のもので しょうか。</p>
<p>立花会長</p>	<p>そうです。</p>
<p>清水課長</p>	<p>職員のものがあるかについては、把握してないですが、恐 らくないと思います。</p> <p>ただ、永久書庫の中に、飲料水は保管しています。</p>

立花会長	<p>防災士の資格を持っている職員と話をしている時に、漁協にいる時に災害が発生して身動きが取れなくなった場合、漁協の職員のことにも考えないといけないという話をしました。</p>
清水課長	<p>非常に大切なことなので、これは防災対策課というよりも、総務課になるかもしれませんが、また提案していきたいと思います。</p>
中村町長	<p>職場で津波がきて、孤立するところは備蓄を考えないといけないと思います。</p>
濱委員	<p>仙台に研修に行った際に知り合って、それからずっともう何十年も続いている友人が仙台にいます。震災があった際に、まず自助、そして共助、最後に公助の三つの段階を踏まないといけないとよく言われました。</p> <p>まず、自分はどうするかということが大切です。</p> <p>それで、理学療法士やヘルパーなど、地震が起きたときよりも、後で心配で見に行った人は皆津波に流された、自分さえ良いという人は助かったと言われていました。</p> <p>日頃から自分はどうするのか考えないといけないと、よく言われていました。</p> <p>先ほど水の話が出ていたのですが、水は賞味期限があってないようなものなので、絶対使えるから全部置いておきなさいと言われ、置場所も困りますが置いています。</p> <p>地区の中に防災士はいますが、女性で取った方はまだいません。</p> <p>男性の気が付かないところに、女性の視点からすごく気が付くことが多いように、最近特に思います。</p> <p>私も皆さんの意見を聞いて、たくさんの学びがありました。</p> <p>前の地震のときも全然関係のない人が来て、駐車場いっぱい逃げてこられた人もありました。</p>
立花会長	<p>それぞれの地区の話を聞けて、大変勉強になりました。</p> <p>とにかく人命が助からない限り、その地域の復興にもつながらないというそれだけの意識でした。</p> <p>水産の組合を守るために漁協が崩れるわけにはいかないので、もう一度防災士の方も含めて検討したいと思います。</p>

<p>濱委員</p>	<p>町の取組等、聞かせていただいたのですが、一番心配なのは、大きな課題かもしれませんが、人口がどんどん減っていくことです。</p> <p>計画を立てても人口が減っていく、それに歯止めを掛けるために取り組まれていると思うのですが、具体的にどうしたら良いのかと思います。</p> <p>高校も私立へ行く人が結構いて、授業料が無料になったらますますそちらへ行ってしまうのではないかと思います。</p> <p>ここに住みつくためには、働くところもですが、住みやすさも大切だと思います。</p> <p>バスも何かタクシーもなくなるような話を聞いているので、ごく不安です。</p> <p>自家用車がない人は、面会にも行くことができなくなるので、その辺りが皆とても不安なようです。</p> <p>とにかく住みやすい町でなければ、住んでくれないだろうし、住みやすいということは、経済的な不安もない、住環境も良いし、交通の便も良いということになったら、なかなか大きな課題ではあると思います。</p> <p>具体的にどうしたら良いのだろうと思います。</p>
<p>中村町長</p>	<p>濱委員が言われたとおり、産業がしっかりしないと帰ってきても働く場がないなど、今の産業もそうですし、例えば企業誘致等もそうですし、そういうことは当然取り組んでいく必要があります。</p> <p>後は子育て支援です。やはり高校まで含めて子育てしやすい環境づくりをしていくということです。</p> <p>例えば放課後児童クラブを3年生までなのを6年生まで対応できるようにしたり、子ども第三の居場所ができたり、両親ともに共働きが普通だと思いますので、安心して子育てができるような環境づくりをしていく必要があるということです。</p> <p>人口を増やすということは現実的には難しいので、とにかく人口の減少のスピードをまず緩めていって、緩めていくことで、様々な対策をしていったときにその対策が効果を生むようにはなります。</p> <p>今の減り方だと、なかなか後追いの対策になってしまって対策の効果が出にくいので、いくつかの組合せが必要です。</p> <p>高校も、当然、頑張っ取組んでいますし、恐らく、そう遠くない内に全国から募集をしていくようになっていくと思いま</p>

	<p>す。</p> <p>ただ、私立高校との競合があります。南宇和高校の魅力化で、推薦入学できる大学を増やすことで、南宇和高校で頑張れば、そこに推薦入学できるという話を少しずつ進めています。</p> <p>たくさん取り組むことありますので、皆さんに御協力いただきながら進めています。</p>
<p>濱委員</p>	<p>移住してくる人たちは増えていますか。</p>
<p>桑原室長</p>	<p>5年前などに比べると移住者は増えていて、5年前が30、40人ぐらいで今は80人ぐらいです。</p> <p>ただこれも、正確な数字ではなくて、あくまでも転入するときのアンケートの結果なので、アンケートの書きぶりによって変わってきます。</p> <p>ここ2、3年、愛南町も移住に関するいろいろな活動をしていますので、少しずつ増えてきています。</p> <p>実際には、移住の相談は、昨年度も140件程度ありました。</p> <p>ただ、1番に言っていますのは、無理やりで愛南町に住んでくださいではなく、こちらとしては、愛南町を気に入っていただくきっかけづくりという形で活動しています。</p> <p>実態としては、その仕事を求めて来られる方ではなくて、愛南町の場合、観光をこれから売り出そうということもありますけど、海が好き、釣りが好き、潜るのが好きなどという方が多いです。</p> <p>移住についても引き続き、これは歯止めの部分の手段の一つではありますが、活動していきたいと思えます</p>
<p>濱委員</p>	<p>教える先生がいないと、なかなか目標の大学に行くということも大変なので、教える先生を引き込むことも大事だと思います。</p>
<p>中村町長</p>	<p>クラス数に応じて配置できる先生の数があって、少ない場合は、兼務で人を配置せざるを得なくなります。</p> <p>そこを少しでも補えるように、叶夢センターで、進学する場合も、就職する場合も、その後の面接まで想定して自己推薦書を書けば、実際に面接に行ったとき、自己推薦書を見た中で、向こうから受ける質問の想定問答ができるといった訓練も含めて取り組んでいます。</p>

<p>立花会長</p> <p>全委員</p>	<p>推薦入学できる一つの方法として、例えば大学が今取り組んでいる、自分たちがフィールドを使っているいろいろなところで学生を伸ばしたいというところについて、国からの公金が少なくなっているの、そういう所をバックアップしていけばと考えています。</p> <p>例えば、愛媛大学が、愛南町で一定の学習をするようなシステムを作っています。</p> <p>そうすると、愛南町にある南宇和高校からの推薦枠を考えてもらえるなど、そういうバックアップの仕方をしています。</p> <p>その他質疑等ありませんか。</p> <p>(なし)</p> <p>(閉会)</p>
------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------